

営農情報

2022
8月号 No.115

J Aレーク伊吹 経済部 営農企画課

TEL 0749-63-2101 FAX 0749-64-2085

今月の話題

- ◆ 適期収穫
- ◆ 適正乾燥・調製
- ◆ 異品種・異物混入（コンタミ）防止
- ◆ 農作業時の事故に注意しましょう
- ◆ 農政ダイジェスト

湛水管理を徹底しましょう

J Aレーク伊吹農産物安全対策協議会

出穂後の間断灌水では、玄米カドミウム吸収が高まります。出穂から3週間までは常時湛水管理の実施をお願いいたします。

病害虫防除所発表

斑点米カメムシ類 発生量 **多い**
トビイロウンカ 発生量 **やや多い**

メモ

✓ 土づくり資材 “田華の豊稲”
注文書の申込締切日
令和4年10月14日



✓ エコ コンバイン油 申込受付中
4ℓ缶 3,036円（税込）
20ℓ缶 14,652円（税込）



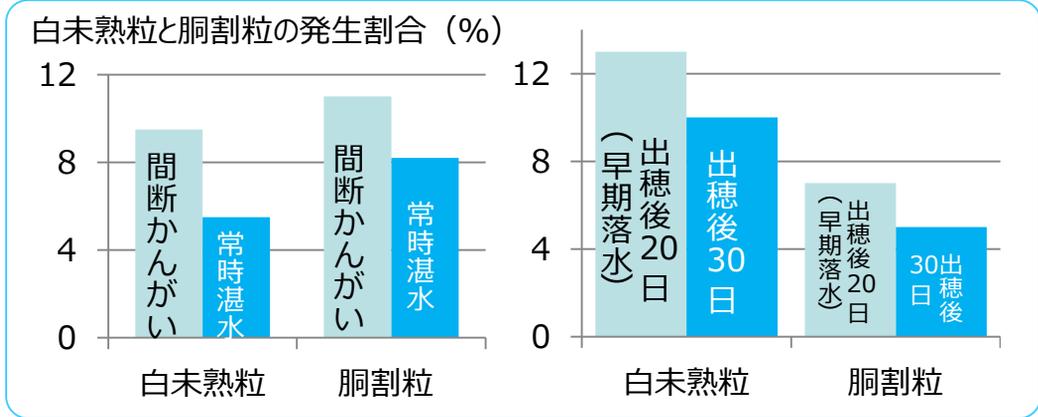
先月末に斑点米カメムシ類すくい取り調査を行いました。今年は平年に比べて発生量が多く注意が必要です。圃場にカメムシ類を寄せ付けないために適期防除と継続した畦畔の除草を行いましょう。

適期収穫

現在までの水稻の生育は平年並みか、やや早く進んでいます。今後の気温も平年より高い見込みですので、適正な水管理と刈遅れの防止につながる計画的な収穫準備をしましょう。

適正な水管理

- 出穂前後各3週間は品質向上とカドミウム抑制のため湛水管理を実施しましょう。
- 早期落水は白未熟粒・胴割粒の発生が多くなります。収穫の5日前を目安に、支障のない範囲でできる限り落水を遅らせましょう。

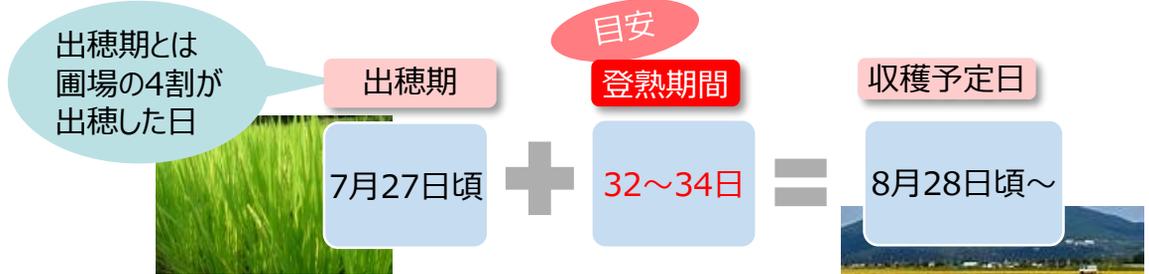


適期収穫

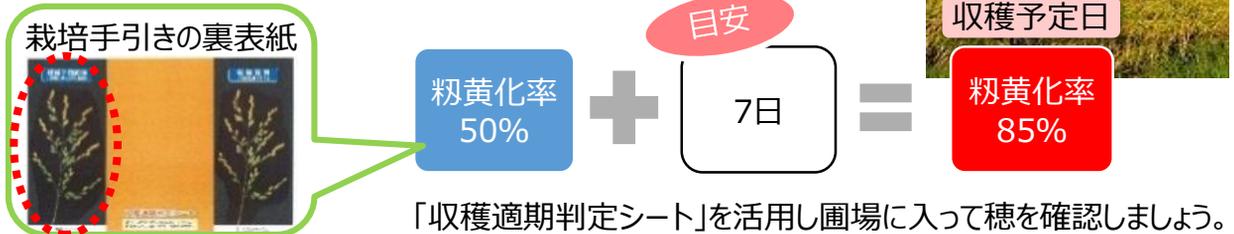
- 早刈りは、青未熟、未熟粒の混入増加や収量の低下
- 刈遅れると、胴割粒、白未熟粒の増加や倒伏を助長

収穫日を予測しましょう

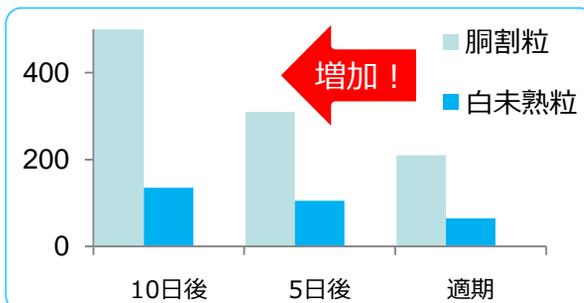
➤ 出穂期からの収穫予測(5月上旬植エコシヒカリの場合)



➤ 籾黄化率からの収穫予測



➤ 刈遅れが玄米品質に及ぼす影響 (/1000粒)



今後、気温の高い日が続くと登熟期間が短くなりますので、収穫が遅れないよう、出穂後30日までに収穫・調製の準備をしましょう。



適正乾燥・調製

作業上の注意ポイント

1. 急激な高温乾燥・仕上げ水分に注意します。
2. 収穫後は速やかに乾燥機に入れて半日以上の通風乾燥をします。
→ 放置する事は「蒸れ」の原因となり、変質の原因となります!
3. 昼間の乾燥は熱風温度が高くなり、胴割粒が増えるので注意します。
4. 毎時乾減率（1時間当たりの水分減少の割合）を0.8%以下に抑えゆっくり乾燥させます。



< 乾燥スピードの確認 >

張り込み通風後水分25% 仕上げ水分14.5%の場合

$$(25-14.5) / 0.7 = 15 \text{ (時間)}$$



乾燥時間は15時間以上必要!

乾減率が毎時0.8%を超えると胴割れが増加します!



5. 仕上げ水分15%の手前で1昼夜テンパリングを行います。
6. 玄米水分が14.5~14.9%以内になるように均一に仕上げます。

< 乾燥終了から粳摺り時の水分変化 >

粳水分14.9%で
乾燥機を止める



乾燥終了後の
粳14.9%



放冷後の粳
14.5%



仕上げ玄米
14.5~14.9%

必ず放冷1昼夜以上

乾燥調製時に発生する「胴割粒防止」の要因と対策

要因 ① 「急激な乾燥・均一な水分調整」

水分ムラが大きい粳を連続乾燥すると高水分粳は乾燥速度が速く、低水分粳は過乾燥になりどちらも胴割れしやすくなります。乾燥終了後に、未熟粒（高水分粳）からの水分移行により、「水分の戻り」が起るため、この戻りを考慮して低水分乾燥すると胴割れの発生を促進させます。

対策 「2段階乾燥（休止乾燥法）技術の活用」

一次乾燥
16.0%~18.0%

乾燥機停止
8時間程度の静止時間

二次乾燥
仕上げ水分14.5~14.9%



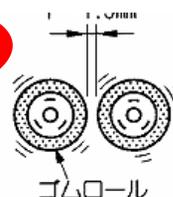
要因 ② 「粳摺作業時のゴムロールの締め過ぎ」

脱ぶ率を上げすぎると、胴割れしやすいものは碎けてしまいます。

対策 「ゴムロールや粳供給量の調整」

脱ぶ率が80%~85%になるようにロール間隙を適切に調整してください。

調製&目視
が肝心!



胴割粒の発生要因は上記の他にも「低張り込み以下での循環送風」や「粳供給過多による2度摺り」などがあります。乾燥・調製作業で等級に影響が出ないようにご注意ください。

注：胴割粒の発生は栽培環境によっても増減します。



異品種・異物混入（コンタミ）防止

米の販売が、品種銘柄中心となっていることや、JAS法の施行などにより産地から出荷する米穀については「表示銘柄以外の混入のない米穀」であることが必須となっています。
異物混入は消費者に健康被害をもたらす恐れがあり生産者に責任が問われることとなります。



異品種混入事故の主な事例（原因と対策）

事故例 播種・育苗・移植段階での取り違い

播種もしくは移植段階において品種の取違えがあったが、そのまま収穫されカントリーに出荷したことから大規模なコンタミ事故となった。

対策

コンタミ防止は播種作業時から行わなければならないことを認識し、播種・育苗・移植時にも品種名を確認し作業を進め出荷時においても品種突合を行う。

事故例 作業段階での確認不足

一連の作業を家族内の複数人で行っていたため、取扱品種の共通認識・管理がされておらず、コンタミ事故を招いた。

対策

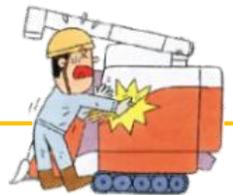
各作業段階において、誰が見ても品種が分かるよう、品種名を明記するとともに、確認を徹底しながら作業を行う

消費者に安心と安全をお届けできるよう、異品種・異物混入を防止する取り組みをしましょう。

農作業時の事故に注意しましょう

農作業事故の大半は、基本操作ミスや安全確認不足から起こっています。事故を未然に防ぎ、労働安全の確保を図るためにも、作業前のチェックと「声かけ」により慣れからくる油断をなくすることが重要です。

【秋の農作業安全月間】 令和4年8月15日(月)～10月31日(月)



コンバインの事故防止チェック項目

- 詰まったワラを取り除く時はエンジンを止める。
- 腰・首元のタオルなど、巻き込まれやすい服装は避け、袖口のボタンを留める。
- 手こぎ作業では、手袋をはずして作業する。
- 圃場に入る時や高い畔を渡る時は足場板を使用する。

ひと月の動き

農政ダイジェスト

農業・地域の雑誌「地上」より抜粋
～定価（税込）618円 購読申込受付中～

2022年産米、3.5万ha減少の見込み

農林水産省は22年産主食用米が、4月末時点の作付面積で3.5万haの減少見込みであると発表。都道府県の作付け意向は、減少傾向が37、前年並み10、増加傾向0。1月末時点と比べ、前年より減少傾向とした県が22県から37県へ増加した。同省は、需給均衡のためには3.9万haの減少が必要であるとしており、作付け転換も今後推進していく意向。

農業経営体数が100万を割り込む

農水省が発表した農業構造動態調査で22年の農業経営体の数は前年比5.4%減の97万5100となったことが判明。調査開始の05年の200万9380から半減した。同省は高齢化に伴う基幹的農業従業者の減少が経営体の減少に繋がっていると指摘。経営規模の大小や営農形態を問わず、農業従事者を確保する必要があるとしている。

お知らせ
9月訪問
について

9月はカントリーに勤務しております。
定期訪問にお伺いできませんので、予めご了承ください。



お問い合わせ等ございましたら、お気軽にケータイにご連絡下さい。